

◆浮世絵とは◆

浮世絵の『浮世』とは、もともとは「当世風な」「現代風な」などの意味を持っています。浮世絵に描かれるテーマは、当時の人々や日常生活の様子、流行などを反映されたものが基本となります。現在のポスターやプロマイド、雑誌、旅行ガイド、商品カタログのような役割も担っていました。一枚の値段は、当時のそば一杯程度の値段(現在の貨幣価値に換算すると400～500円位)で、庶民でも購入しやすい身近な存在でした。

★浮世絵には大きく分けて3つの種類があります

①木版画の草紙類の挿絵(版本挿絵)

②木版画の一枚の絵(一枚絵)

③絵師の直筆絵画(肉筆浮世絵)

①と②は手摺りで量産でき、最も技術が発達し、隆盛を極めた浮世絵が②です。

★浮世絵版画ができるまで

はんもと
版元

浮世絵版画の企画、制作、販売まで一括してプロデュースする。



えし
絵師

版元と相談しながら、下絵を描く。



ほりし
彫師

下絵を清書した版下絵を版木に裏返しに貼り、墨版(主版)を彫る。その後、絵師の色指定通りに色版を彫る。



すりし
摺師

最初に墨版を摺り、薄い色から順に色版を摺り重ねて、完成させる。



「婦女人相十品 ビードロ吹き」喜多川歌麿



「市川海老蔵の竹村定之進」東洲斎写楽

浮世絵作りの現場風景



「今様見立士農工商 職人」歌川国貞(初代) 出典:江戸東京博物館

当時、主に男性だった職人を女性の姿に置き換えて描いた3枚続。右上は小刀で墨版(主版)を彫る彫師、中央上は小槌とノミで広い部分を削る彫師。左下のキセルを持って休憩しているのは摺師で、背後には赤い色版、バレンを置いた摺台、絵具や刷毛を置いた棚が描かれている。

参考文献

- 『図解でスッと頭に入る浮世絵』永井龍之介/監修 昭文社 2025.5
- 『絵で見て楽しい!はじめての浮世絵』藤沢紫・藤沢茜/著 すばる舎 2025.2
- 『もっと知りたい浮世絵』田辺昌子/著 東京美術 2019.12
- 『面白いほどよくわかる浮世絵入門』深光富士男/著 河出書房新社 2019.8
- 『ようこそ浮世絵の世界へ』太田記念美術館/監修 東京美術 2015.8
- 『知識ゼロからの浮世絵入門』稲垣進一/監修 幻冬舎 2011.8
- 『浮世絵の基本を知る』名古屋刀剣博物館・名古屋刀剣ワールド HP



「九段坂五月夜」小林清親

左列3作出典: ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)